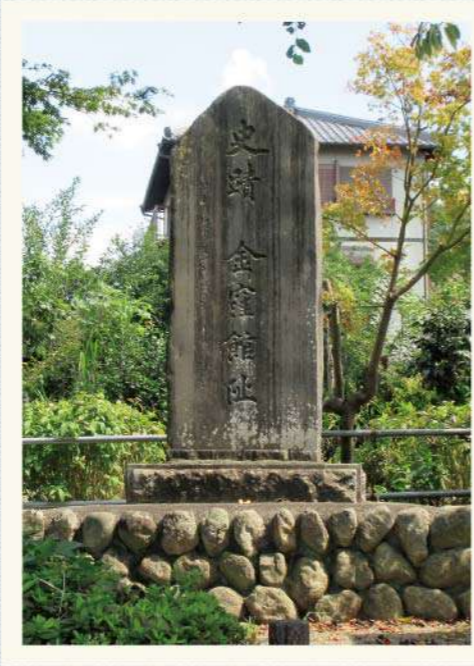


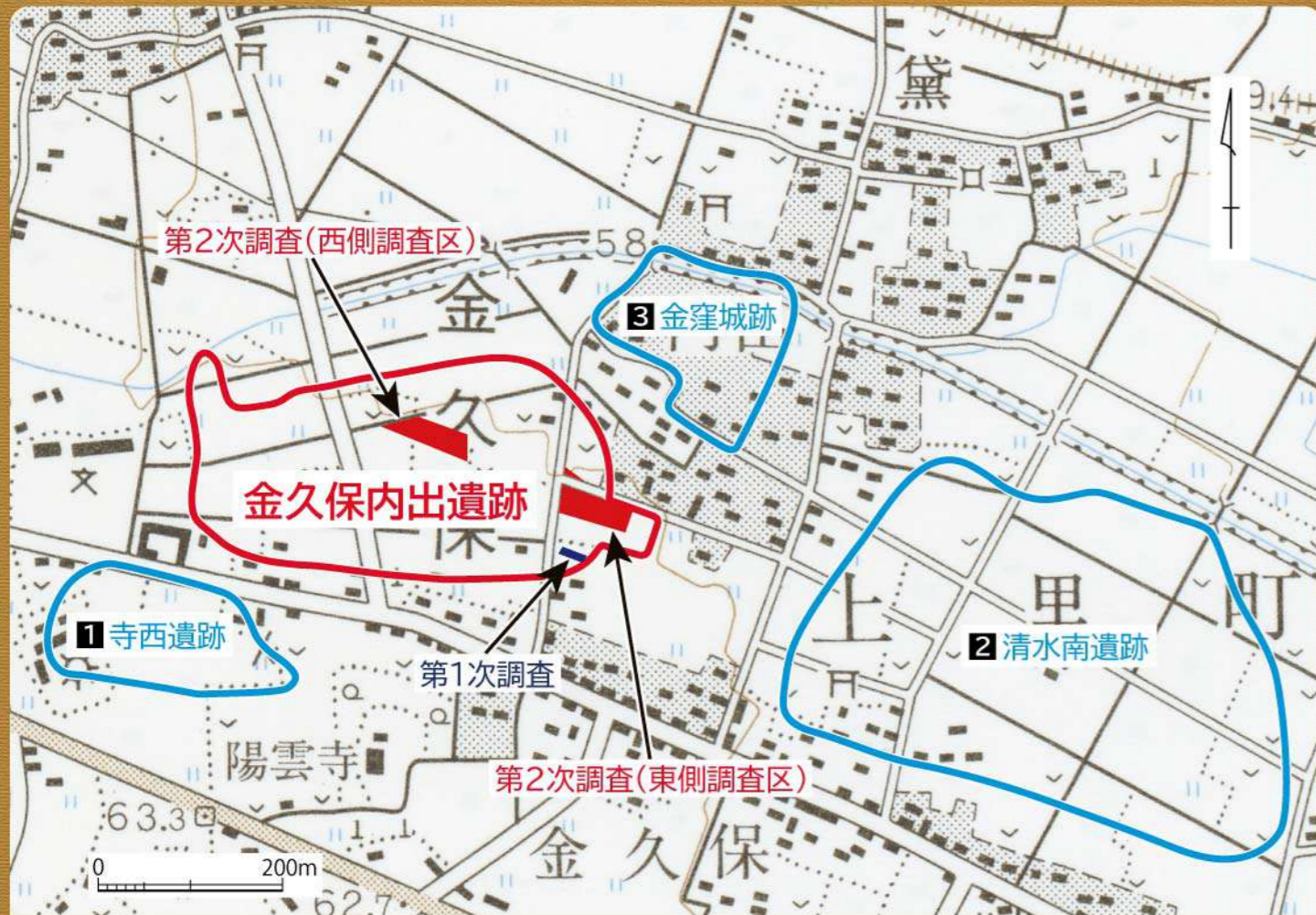
## 周辺の遺跡について

金久保内出遺跡の南西には、古墳時代から奈良時代の寺西遺跡(1)があります。また、東には、奈良時代から平安時代の清水南遺跡(2)があります。ともに集落跡が発見されています。古代の上里町は、『倭名類聚抄』という平安時代の辞典によると、武蔵国加美郡かみに属していました。この加美郡には、小島・新田・曾能その・中村の四郷がありました。

また、中世には、金久保内出遺跡の北東に金窪城(3)が築城されました。天正10年(1582)、本能寺の変で織田信長が敗死すると、織田方の滝川一益と北条方の氏直・氏邦の間で関東最大の野戦、神流川合戦がおこりました。金窪城は、その戦いにかかわる城といわれています。現在は土塁や堀の一部が残っています。



金窪城跡に建つ石碑



金久保内出遺跡第1次・第2次調査地点と周辺の遺跡

令和4年度 第3回  
遺跡見学会資料  
令和4年10月30日(日)

# 上里町



# かなくぼうちで 金久保内出遺跡 (第2次)



金久保内出遺跡は、神流川扇状地の自然堤防上に立地しています。これまでの調査では、古墳時代から奈良時代にかけての集落のあとが確認されています。今回の調査では、新たに平安時代の竪穴住居跡も検出され、集落が古代を通して営まれていたことが明らかとなりました。今回の遺跡見学会では、その成果の一部をご覧ください。



[主催] 埼玉県教育委員会・公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団  
[共催] 国土交通省 関東地方整備局 大宮国道事務所・上里町教育委員会

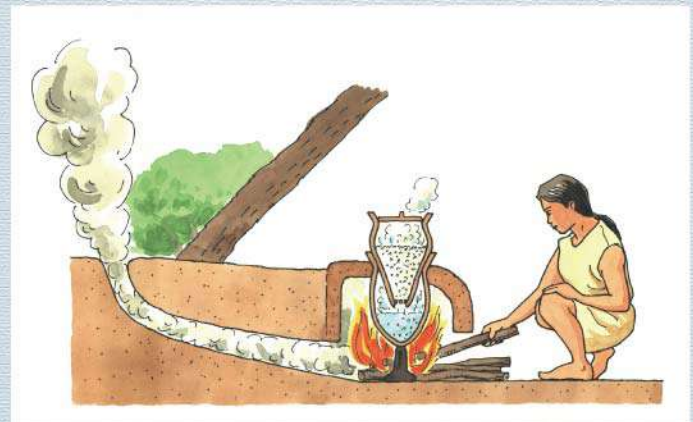
# 金久保内出遺跡（第2次）全体図

## 遺跡の概要

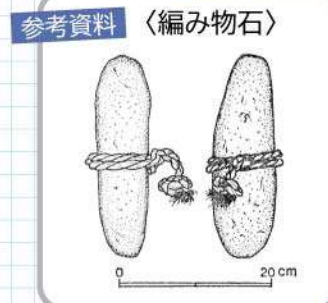
これまでに上里町教育委員会が行った調査では、古墳時代と奈良時代の竪穴住居跡が3軒検出されました。

今回の調査では、新たに平安時代の竪穴住居跡や、中世の溝跡などが確認されました。竪穴住居跡は掘り込みが深いものも多く、カマドが良好な状態で発見されました。なかには、煙を屋外へ逃がす煙道の部分が、天井ごと残った住居跡もありました。

また、調査区の西側で見つかった溝跡からは、中世の片口鉢の破片が出土しました。近くの金窪城跡との関係も考えられます。

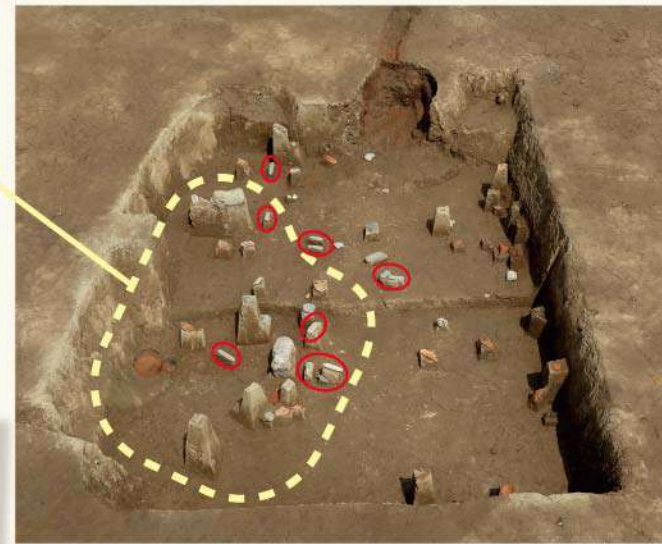


カマドの仕組み（復元図）



（出典：埼玉県立さきたま資料館 1985『北武蔵の農具』）

第3号住居跡は、掘り込みの深い竪穴住居です。床面付近からは、薦や俵を編むときに使用した編み物石と思われる、楕円形の石が多く出土しました。



第3号住居跡（約1,200年前）

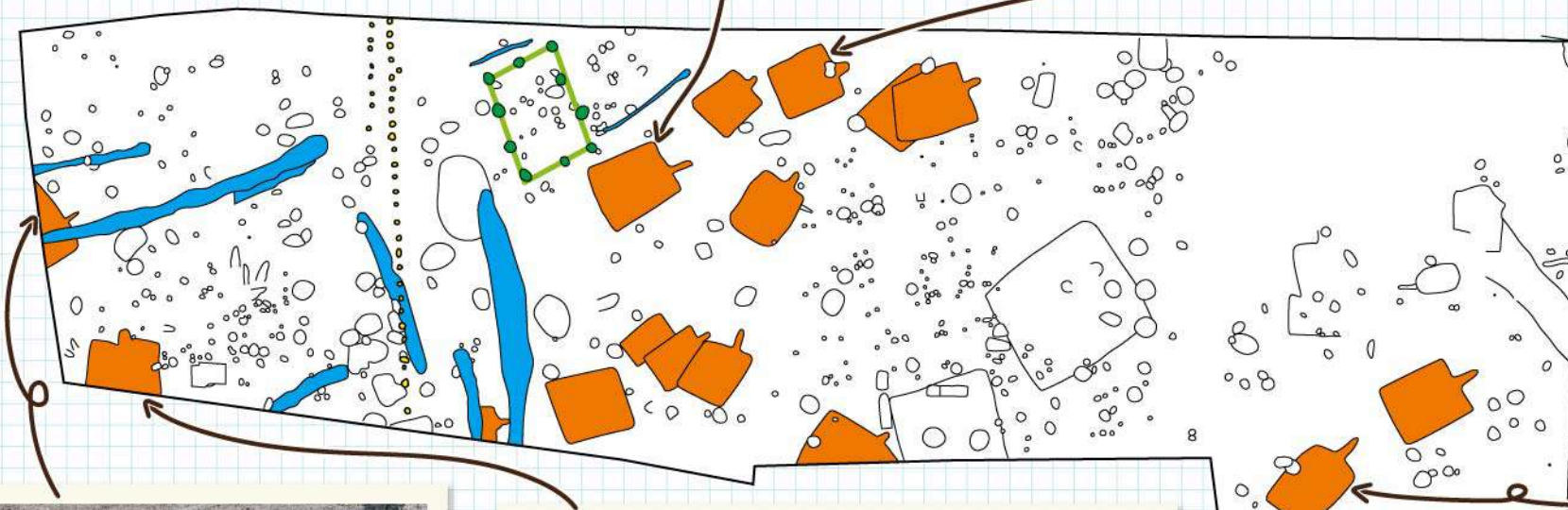


第5号住居跡 カマド（約1,200年前）



すえき つき 須恵器 坏

第5号住居跡のカマドの燃焼部から、須恵器の坏が出土しました。また、煙道部に土師器の甕をすえて排煙に利用していました。



- 凡例
- 竪穴住居跡
  - 掘立柱建物跡
  - 溝跡
  - 柵跡

0 10m 1:400



第2号住居跡  
遺跡のなかで、一番古い住居になります。（約1,300年前）



第1号住居跡（約1,300年前）

第1号住居跡からは、円形の碇の破片が出土しました。文字にかかわった人が、官衙（役所）か寺院で使っていた道具です。大変貴重なものでした。

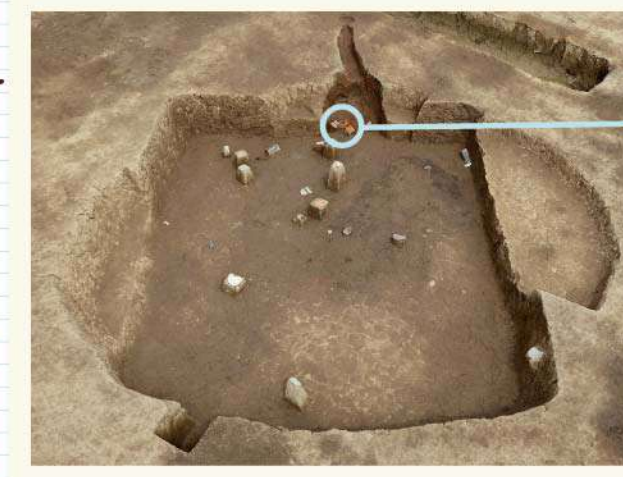


すずり 円形の碇

参考資料



〈円面碇〉東松山市 西浦遺跡出土（埼玉県教育委員会所蔵）



第13号住居跡（約1,200年前）



はじき 土師器 甕

第13号住居跡は火事などで焼けた可能性のある住居です。カマドからは、土師器の甕が、つぶれた状態で出土しました。

